

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
令和2年度9月

○ 概要

- (1) 令和2年9月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,055億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲1.7%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,667円（伸び率+5.3%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が1,534億円（伸び率▲2.1%）薬剤料が4,509億円（伸び率▲1.5%）、薬剤料のうち、後発医薬品が921億円（伸び率+1.6%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,793円（伸び率+4.8%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.74種類（伸び率▲0.8%）、28.0日（伸び率+11.8%）、76円（伸び率▲5.6%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,629億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲82億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の628億円（伸び幅+26億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+45億円（総額388億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,629億円 (▲82億円)	39 その他の代謝性 医薬品(628億円)	21 循環器官用薬 (627億円)	11 中枢神経系用薬 (617億円)
0歳以上 5歳未満	16.1億円 (▲10.0億円)	44 アレルギー用薬 (6.4億円)	61 抗生物質製剤 (2.2億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2億円)
5歳以上 15歳未満	66.5億円 (▲7.3億円)	44 アレルギー用薬 (24.1億円)	11 中枢神経系用薬 (20.5億円)	39 その他の代謝性 医薬品(4.5億円)
15歳以上 65歳未満	1,282億円 (▲4億円)	11 中枢神経系用薬 (283億円)	39 その他の代謝性 医薬品(237億円)	21 循環器官用薬 (189億円)
65歳以上 75歳未満	869億円 (▲13億円)	39 その他の代謝性 医薬品(181億円)	21 循環器官用薬 (173億円)	42 腫瘍用薬 (125億円)
75歳以上	1,396億円 (▲48億円)	21 循環器官用薬 (261億円)	11 中枢神経系用薬 (211億円)	39 その他の代謝性 医薬品(204億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,667円（伸び率+5.3%）で、最も高かったのは高知県（11,680円（伸び率+8.3%））、最も低かったのは佐賀県（8,104円（伸び率+5.0%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+11.2%）、最も低かったのは和歌山県（伸び率+1.4%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標）注)	81.3 %	+2.6 %
薬剤料ベース	20.4 %	+0.6 %
後発品調剤率	76.4 %	+1.6 %
（参考）数量ベース（旧指標）	57.8 %	+2.9 %

注)【後発医薬品の数量】/（【後発医薬品のある先発医薬品の数量】+【後発医薬品の数量】）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+1.6 %	+21.5 % (100歳以上)	▲27.6 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.4 %	29.1 % (100歳以上)	12.1 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	81.3 %	86.1 % (100歳以上)	73.6 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	800億円 (+4億円)	21 循環器官用薬 (243億円)	11 中枢神経系用薬 (124億円)	23 消化器官用薬 (104億円)
0歳以上 5歳未満	5.1億円 (▲2.8億円)	44 アレルギー用薬 (2.7億円)	22 呼吸器官用薬 (1.4億円)	61 抗生物質製剤 (0.4億円)
5歳以上 15歳未満	12.8億円 (▲2.8億円)	44 アレルギー用薬 (7.9億円)	11 中枢神経系用薬 (1.6億円)	22 呼吸器官用薬 (1.1億円)
15歳以上 65歳未満	261億円 (▲10億円)	21 循環器官用薬 (69億円)	11 中枢神経系用薬 (51億円)	23 消化器官用薬 (30億円)
65歳以上 75歳未満	193億円 (+1億円)	21 循環器官用薬 (74億円)	23 消化器官用薬 (24億円)	39 その他の代謝性 医薬品(20億円)
75歳以上	328億円 (+19億円)	21 循環器官用薬 (100億円)	11 中枢神経系用薬 (53億円)	23 消化器官用薬 (50億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,470円	1,872円(北海道)	1,237円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+8.8 %	+15.5 % (徳島県)	+4.3 % (富山県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	81.3 %	88.9 % (沖縄県)	76.6 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.4 %	24.0 % (鹿児島県)	17.6 % (京都府)
後発医薬品調剤率	76.4 %	82.6 % (沖縄県)	71.3 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	57.8 %	65.6 % (沖縄県)	53.7 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和2年9月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。